



# 川と人 Vol.37

特集

悠久なる流水の自然エネルギー 石狩川の水力発電 …… 01

石狩川の歴史

軍都の昔日を今に伝える 軍用水道～春光台配水場～…09

世界川紀行

マレーシアにおける都市と地方の河川……………12  
寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム 矢野 雅昭氏

流域の現在

南幌町 幻のほろむい七草ふたたび ……………17

愛別町 ピンチをチャンスにかえて120年 ……………19

河川ボックス

水防法及び河川法改正のポイント……………22

活動報告

流域環境保全活動 平成25年度実績から……………26

河川教育活動 平成25年度実績から……………29

NPO・市民団体等への支援……………31

平成25年度市町村河川情報委員 情報交換会議 34



## ご挨拶



石狩川振興財団理事長 森田 康志

石狩川振興財団は、平成4年5月に公益法人として設立され、平成23年8月に一般財団法人に移行しました。この間、財団の収益構造は大きく変化しましたが、流域市町村やNPO等との連携を保ちながら、川への理解を深める活動や、川を軸とした流域振興を進める活動等を、財団の公益事業として一貫して進めてきました。

また、収益事業となる北海道開発局等からの受注業務は、受・発注者の密なコミュニケーションを図り、財団でなければできない質の高い業務を達成することを、職員全員の目標として、業務の実施に当たってきました。その結果、平成25年度に実施した業務の内の2つが、北海道開発局長表彰、札幌開発建設部長表彰を受けたことは、大きな励みと誇りになるところです。質の高い業務を達成するよう、引き続き努力と研鑽を進めていきたいと考えています。

近年、東日本大震災をはじめとする大規模災害や、気候温暖化によると考えられる極端な異常気象による災害が、日本ばかりか世界各地で発生しています。一方で、地域では水防団員等の減少や高齢化の進行で、防災体制は弱体化しており、これを受けて、水防協力団体の指定対象が法人にも拡大される等の水防法の改正が行われました。また、河川法も改正され、河川管理等に協力するNPO等を河川協力団体として指定し、これらの団体と連携して、河川の維持管理、情報収集、知識の普及啓発等の充実を図ろうとしています。このように、防災や河川管理において、行政と様々な団体、住民との連携の重要性がますます高まっています。また、行政においても、国の各機関、各地方自治体との連携の必要性が高まっており、安全で潤いのある、また元気な地域を実現するためには、当財団がこれまで培ってきた各市町村やNPO、市民団体及び河川管理者とのコミュニケーションネットワークを、これまで以上に活用することが有用であると考えています。

このため、当財団では、石狩川流域の全46市町村長により構成される石狩川流域圏会議の活動を側面支援することで、流域市町村の活性化を目指します。また、NPO等と連携して行う活動の中では、特に、小中学生といった次代を担う世代を対象とする、河川環境や水防災に関する学習活動に、引き続き力を入れていきます。自然に触れることが少なくなっている昨今、川は身近な自然教育の場なのですが、もっと活用されてよいと思います。自然には大きな危険が内包されています。多少の擦り傷をしながら、大きな怪我をしないことを覚えることは、子供たちにとって大事なことではないでしょうか。危険があることを知らないことが、一番危険なことであり、自ら体験しながら致命的な危険を回避することを、子供のうちに身につけることが必要だと思います。

コミュニケーションネットワークを活かし、石狩川振興財団は、川づくり、まちづくり、人づくりという3つの「つくり」を、これからも進めていきますので、ご指導、ご支援をお願いいたします。



悠久なる流水の自然エネルギー

# 石狩川の水力発電

平成26年3月4日、夕張スーパーパロダムの試験湛水がはじまった。治水はもちろんのこと、利水と観光振興に、流域市町村は大きな期待を寄せている。

石狩川の水は、前回の第36号で特集した、わが国最長の農業用水路・北海幹線用水路をはじめとする農業用水、水道用水、工業用水、発電用水などに広く利用され、石狩川流域の産業と生活を支えている。

北の大地は水力発電においても北海道開拓に大きな役割を果たしてきた一。



1 北海道における水力発電の歴史



2 石狩川の水力発電



3 クリーンエネルギーとして

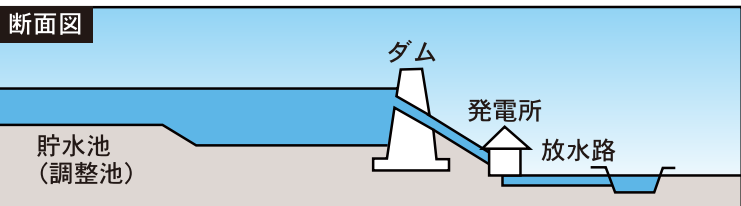
嵐山からの旭川市の夜景と石狩川(旭川開発建設部蔵)

水力発電とは:発電用水車を水の力によって回転させることで発電を行うもの。

## 《主な発電所の種類》

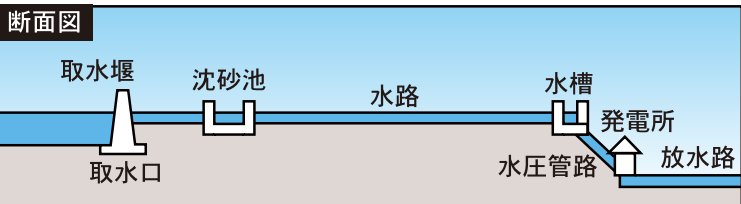
### ダム式発電所

高いダムをつくり、川の水をせき止め、水位を上げることで落差を得て発電する方式。  
なお、ダムの定義は、昭和39年の河川法により、15m以上の堰堤とされている(ハイダム)。



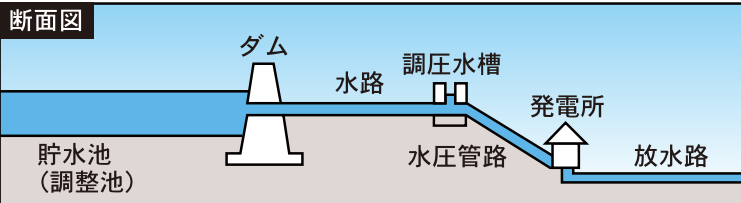
### 水路式発電所

河川に低い取水堰をつくって水を取り入れ、落差が得られるところまで導水路で水を導き発電する方式。  
急勾配な河川が適し、規模の小さいものが多い。



### ダム水路式発電所

ダム式と水路式を組み合わせ、ダムで貯めた水を水路で下流に導き、落差を大きくして発電する方式。



※ほかに揚水発電所がある

\*引用・参考文献:「水力発電とは?」ウィキペディア「水力発電」より抜粋  
「北海道電力:主な発電所の種類」 図は中部電力「発電方法の種類」を参考に作成



ライトアップされた旭橋と石狩川の流れ【旭川市】(旭川開発建設部蔵)



## 北海道における 水力発電の歴史

### 💡 水力発電所のはじまり

北海道での電気事業は、東京から遅れること4年、明治24年の札幌からはじまった。種類は火力発電と水力発電で、電気事業者のほか、帝国製麻などの大規模工場を持つ企業、北海道炭礦汽船や第七師団、鉄道院が自家用発電を行っていた。

日本初の水力発電所は宮城県仙台市の三居沢発電所であり、それから18年後の明治39年、北海道初の水力発電所となる敷島内発電所が、岩内町の幌内川につくられた。日本は、日清戦争後に近代工業化をむかえ、北海道の開拓も変わっていった。明治40年、室蘭に製鉄所と製鋼所が設立され、北海道の重工業化がはじまり、水力発電所も大型化が進むことになる。日露戦争後期は、水力発電の勃興期となるが、その中心となったのは製紙会社だった。

北海道炭礦汽船が大正14年に建設した夕張川の滝の上発電所(水路式発電所)。当時の姿を残す(空知総合振興局蔵)



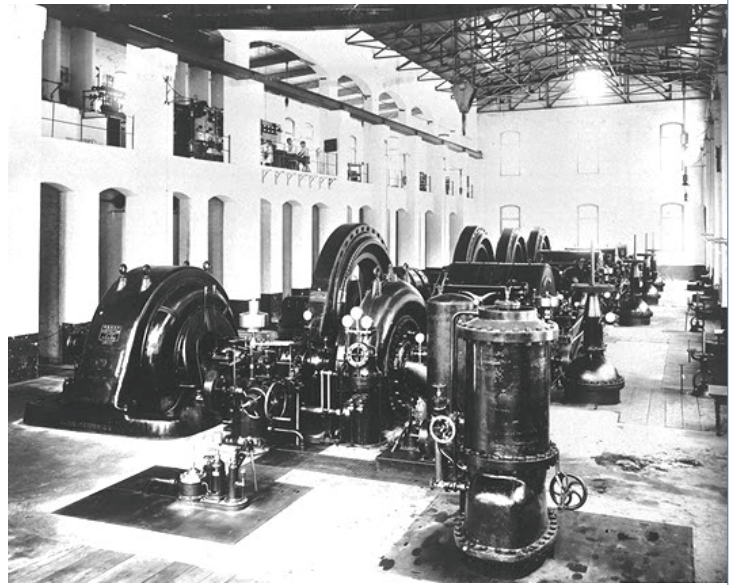
↑豊平川の定山溪発電所。大正初年頃か(北海道大学附属図書館蔵)

## 💡 製紙会社による電源開発

各製紙会社は、エゾマツを原料とする製紙工場を道内に建設した。製紙業は、木材とともに豊富な電力を必要とした。

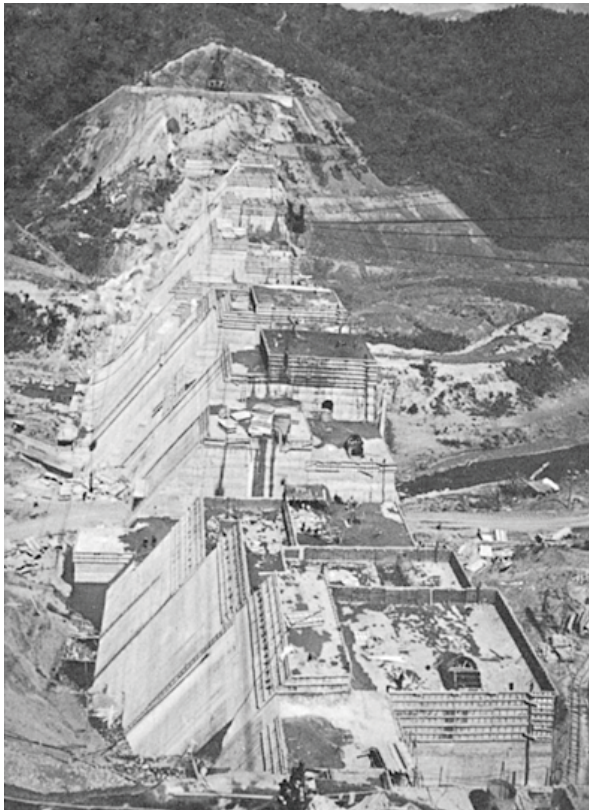
石狩川流域の水力発電は、明治42年に豊平川上流に定山溪発電所が建設されたのがはじまりだ。そして、翌43年から、王子製紙による千歳川上流の水力発電施設群の建設がはじまる。これにより、王子製紙は自社工場の電力確保のみならず、余剰電力を販売し、電気事業の先駆けとなる。

第一次世界大戦後の大正7年、日本初のダム式発電所・野花南ダムが空知川上流に建設されたのを皮切りに、各地に大規模な水力発電所がつけられ、道民生活の電化の基礎がつけられた。昭和18年には雨竜ダムが建設され、砂川を経て札幌までの送電線も完成するなど本道の電力供給の大動脈になり、水力発電は電力の主流に躍り出る。



王子製紙の苫小牧第1発電所内景。明治末頃か(北海道大学附属図書館蔵)

## 💡 多目的ダムの登場



戦後の北海道総合開発に大きな役割を果たした多目的ダム・桂沢ダム【三笠市】(「桂沢ダム写真集」から)

太平洋戦争後、電力開発は最盛期をむかえる。昭和26年、電気事業再編成令により北海道電力が誕生し、日高地方の4河川を利用した「日高一貫開発計画」を進めた。

一方、国は戦後の経済復興の要を北海道開発とし、昭和26年に「北海道総合開発第1次5カ年計画」を策定。電源開発、道路・港湾・河川などの整備、食糧増産を目的に、「石狩川水系総合開発事業」を推進した。石狩川水系の水を流域の産業と生活に活かす「利水」を最大目的に、幾春別川に多目的ダム・桂沢ダムを昭和32年に竣工させた。桂沢ダムは本道総合開発史上画期的な偉業と言われ、その後多目的ダムの金山ダム、豊平峡ダム、大雪ダム、漁川ダム、定山溪ダム、滝里ダムが建設されていくのである。

以降、日本の電気事業は、電力需要の増加に伴い水力から火力、そして原子力をベースとしたベストミックスへと移行していく。



ライトアップされた旭橋と噴水[旭川市](旭川開発建設部蔵)



## 石狩川の水力発電

### 💡 現役最古の産業遺産・千歳川発電施設群

業績悪化に苦しんでいた王子製紙は、抜本的解決を図るため、最新鋭の大型工場建設を目指し、明治37年に支笏湖周辺と千歳川の調査を行った。工場立地には至らなかったが、支笏湖は不凍湖のため通年の発電が見込まれるなど、水力発電に好適地という結果を得た。こうして、千歳川を利用した発電施設群の建設がはじまる。明治43年、千歳川第一発電所が竣工し、同年9月に「東洋一」と称された苫小牧工場が操業を開始した。支笏湖直下流の千歳川溪谷・水明郷に、落差130mで4本の送水管を設置した第一発電所は、完成当時は国内最大のものであり、現役としては国内最古となる。続いて、大正5年に第二発電所、同7年に第三発電所、同9年に第四発電所、そして昭和16年に第五発電所が建設された。このうち、第三発電所は道内初の重力式コンクリートダムで、第四発電所も同様のタイプのダムである。当時の最新鋭の技術が注ぎ込まれた。

千歳川の発電施設群は、「北海道における水力電力開発黎明期を代表する現役稼働の水力発電施設群。新聞用紙等の国産供給力の質と量の飛躍的向上を支えた」という理由で、2007年土木学会選奨土木遺産に選定された。



王子製紙株式会社苫小牧第1発電所外景(北海道大学附属図書館蔵)

## 💡 景勝地ならではの議論と配慮・石狩川本流の発電所

石狩川の包蔵水力を生かして、石狩川は水力発電の中心として利用されてきたが、石狩川本流も例にもれず発電に利用されている。大正14年、当時の北海道電燈により愛別発電所が建設され、昭和2年に安足間発電所、昭和4年には上川発電所と、続けざまに発電施設が建設されたが、以後約10年間、その動きは止まる。

昭和6年、国立公園法（現・自然公園法）が施行され、大雪山国立公園指定建議案が国会に提出されたことで、上川町は発電所の計画を保留したのだ。「電源か、景観か」という議論はこの時すでに起こっていた。しかし、昭和13年の国民総動員法の施行により発電は国策となり、石狩川本流の発電所計画もすぐさま動き、昭和16年には真勲別発電所が竣工した。

戦後の電力需要に応えるため、昭和28年、道内屈指の景勝地・層雲峡の発電所工事に着工する。層雲峡発電所は、大函に広大な調整池を設置し、導水路も大規模なもので、翌29年に竣工した。周辺には流星の滝と銀河の滝があるため、観光シーズンには放水し、水圧鉄管を土で覆うなど景観に細心の注意を払っている。



銀河の滝と石狩川(旭川開発建設部蔵)

## 💡 日本最大級のダム湖・雨竜ダム

幻の魚イトウが棲み、大小13の島が浮かぶ朱鞠内湖。建設当時は日本最大のダム湖だった。その豊かな自然を理由に、昭和49年、朱鞠内湖は道立自然公園の指定を受けた。この湖を造りだした雨竜第一ダムは、日中戦争勃発による非常時体制下の昭和13年に着工された。

まず、雨竜川に重力式コンクリートダム・雨竜第一ダムを建設、つぎに、ダム直下流で雨竜川に合流するウツナイ川に雨竜第二ダムを建設した。雨竜川の落差が少ないため、発電所はダム下流に設けず、名寄市風連町に建設し、雨竜川の水を天塩川に落として発電するというアイデアが採用された。工事は、戦時下の資材不足と酷寒等により7年の歳月を要し、昭和18年に竣工した。

このダム建設により鉄道整備も進んだ。建設資材や労働者を運ぶために延伸された深名線(平成7年廃止)は、深川駅と名寄駅を結ぶ、地域の貴重な足となった。

また、当初は「雨竜貯水池」という名称だったダム湖を、朱鞠内地区の観光資源として活用するため、昭和23年に地名を冠した朱鞠内湖と命名し、ワカサギやイトウの養殖も試みるなど、地域をあげて一大レジャースポットの土台をつくったのである。



日本一の広さを誇った朱鞠内湖(「川と人」第11号より)



雨竜第一ダム(石狩川の碑より)





観光放流を行っている多目的ダム・豊平峡ダム【札幌市】(札幌開発建設部蔵)

## 💡 小水力発電の試み

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う福島第一原発の事故を契機として、国内の原発は次々に停止した。現在、日本のエネルギーの未来は、国民の最大の関心の一つになっている。こうした状況の下で、水力発電は、天候に左右されにくく、24 時間安定供給が可能な再生可能エネルギーであり、とくに小水力発電が注目されつつある。

国土交通省は、出力 1,000kw 以下の小水力発電にかかわる水利使用手続きの簡素化・円滑化を図った。また、北海道開発局は、農業水利施設を活用した小水力発電を推進している。

農業王国北海道は、ダムやため池などの農業水利施設の規模が全国 1 位で、「北海道農業水利施設小水力発電推進協議会」が設立されるなど、小水力発電の円滑な導入を目指している。また、富良野市では、ドラマ「北の国から」の舞台・麓郷地区を流れる白鳥川に、民間主導で重力水車（開放型下掛け水車）を設置し、発電試験を行っている。もともと水車は、電動機や蒸気機関が普及するまで広く使用され、自らつくることができる身近な原動機だった。地域の小さな川に、水車が回る光景が見られる時代がやってくるかもしれない。

北海道開拓を支えた石狩川の悠久の流れは、これからは未来を灯す役割を担っていく。



農業用水路を利用した七ヶ用水発電所  
【石川県】(国土交通省北海道開発局  
「農業水利施設を活用した小水力等発電  
の導入促進について」より)



米づくりの歴史を伝えるため札幌市西区五天山公園に復元された水車小屋。



石狩川源流【上川町】(石狩川振興財団蔵)

## 💡 夕張シューパロダム情報

夕張シューパロダムは、洪水調節と、かんがい及び水道用水の確保と発電を目的とした多目的ダムで、大夕張ダムの直下流に建設されています。平成26年3月から試験湛水がいよいよはじまりました。大夕張ダムの水没に続いて、シューパロ湖にかかる旧森林鉄道の三弦橋は4月26日午後9時頃に水没しました。一般公開されていることから、連日、たくさんの見学客が訪れています。

## 💡 試験湛水の様子を配信中！

夕張シューパロダムの情報と試験湛水の状況は、夕張シューパロダム総合建設事業所ホームページで確認できます。



大夕張ダムの水没の様子（4月2日。貯水位 261.8m）



三弦橋の水没の様子（4月23日。貯水位 272.6m）

※札幌開発建設部夕張シューパロダム総合建設事業所より

◎石狩川振興財団では、模型を使ってダムの機能をわかりやすく教える講習を行っています。

- お問い合わせは、石狩川振興財団まで
- 一般財団法人石狩川振興財団
- 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5
- 大通バスセンタービル1号館8階
- TEL : 011-242-2242 FAX : 011-242-2445
- E-mail: info@ishikari.or.jp



# 石狩川の 歴史

## 軍都の昔日を今に伝える 軍用水道～春光台配水場～

平成 25 年度土木学会選奨土木遺産に、春光台配水場の覆蓋(ふくがい)付緩速ろ過池が選定された。建設当時は日本最北の浄水施設であり、美しい煉瓦積アーチの覆蓋を設けた水道施設は、極寒地の水道施設の礎であるとともに、石狩川の利水と軍都旭川を今に伝える貴重な歴史遺産でもある。



### 第七師団と旭川

第七師団は、明治 29 年に屯田兵を母体に独立編成部隊として発足し、同 32 年に正規の師団として改変された。それまで国内には、「鎮台」という国民兵を基礎に編制された第六師団までがあった。明治 31 年に沖縄で徴兵令が施行され、日清戦争以後ロシアとの緊張関係が高まる中、全国一律の軍事体制がようやく実現を見たのである。第七師団も、こうした動きの一環と考えられた。



第7師団遠景。明治末(北海道大学附属図書館蔵)

第七師団の衛戍（えいじゅ）地は、当初は札幌だったが、上川地域に移転が決まる。上川地域は、北海道の中心に位置し、ここを拠点に鉄道も敷設される予定であり、山に囲まれた自然の要害で防御に適していた。しかし、一番の理由は、第二代北海道庁長官で第七師団長に就く永山武四郎の構想に叶うためと言われた。「屯田兵の父」と讃えられる永山は、明治24年の後期屯田で永山に400人、翌25年に東旭川に400人という大規模な入植を実現させ、上川地域を本道の行政・防衛の本部とする構想を唱えた。その成り立ちから、旭川は軍都の性格を持っていたのである。

調査結果をもとに、石狩川右岸の鷹栖村字近文が衛戍地に決まり、明治33年から35年にかけて第七師団は移転した。なお、近文は明治35年に旭川に編入されている。

第七師団は、ほとんどの部隊が旭川に集中する全国でもまれな師団で、市民も第七師団を象徴として軍都を強く意識した。道内各地から部隊移駐要請運動が行われると必死になって移転阻止の運動を展開したという。

また、第七師団は、明治37年の日露戦争には出兵したが、北の守りを固めるために北海道に居続けたことから「動かざる師団」と称され、道民からは敬愛を込めて「北鎮部隊」と呼ばれた。



第七師団歩兵第26連隊の一部。明治42年(北海道大学附属図書館蔵)



## 軍用水道の歴史

第七師団は市民の国防意識とともに、さまざまな影響を旭川に与えた。人口が増加したことは一級町村制が施行される要因になり、工事が始まると市街地および師団付近の土地は高騰。旭川市街地が拡充し、商人が多数移り住んで、師団通と呼ばれる繁華街が形成された。

注目すべきは、都市機能の重要な施設が、旭川市街地よりも先に軍隊内に整備されたことだ。明治35年、まず火力発電所が設置された。一般家庭への送電よりも6年も早い。そして、上水道の整備である。明治42年に衛戍地内でチフスが発生し、衛生的な飲料水確保のために上水道を敷設する気運が急速に高まったことから、明治43年4月から上水道工事がはじまった。

現在の東鷹栖浄水場がある場所に取水場を設置し、そこに設けた沈砂溝に石狩川の流水を導く。揚水場は衛戍地内の発電所近くとし、電力を動力源とするポンプで水を丘陵地春光台の浄水場に揚げ、そこから供給する、当時としては大規模な水道施設である。

春光台に整備された沈殿池、ろ過池、排水池は、すべて凍結しないようレンガの覆蓋（ふくがい）で覆われ、その上に土が盛られた地下式の水道施設である。

総工費約45万円の軍用水道は大正2年に竣工した。旭川市街地に上水道が敷かれたのは、第二次大戦後の昭和27年だったので、住民羨望の快適な生活が30年以上も前からそこにはあったのである。



この下に覆蓋付緩速ろ過池(水道施設)がある(石狩川の碑より)



内部の様子(旭川市水道局蔵)

春光台の水道施設は、覆蓋付緩速ろ過方式で、耐寒技術などが水道技術史上貴重なものであり、昭和60年に当時の厚生省水道環境部による近代水道百選に選ばれた。そして今回の土木遺産への選定である。

軍用水道は、第二次世界大戦後に連合軍に接収されたが、昭和21年に国有財産となり、23年に旭川市が無償で貸し付けを受け、27年に市民の水道となった。昭和43年には配水池へ転用され、旭川市の浄水場施設の一部として今も利用されている。

さて、軍用水道は大正3年2月23日から上水道の供給がはじまったが、これを記念して、春光台の配水場付近に神居古潭石を使った、高さ約3m45cmの軍用水道碑が建立されている。碑文の出だしはこうである。

「清流一帯、蜿蜒(えんえん)として前に走る者は石狩川たり。霊丘一脈。連綿として後ろに起る者は春光台たり」。



軍用水道碑(石狩川の碑より)  
春光台配水場・軍用水道碑(春光台公園:旭川市字近  
文5・6線3号~5線5号)

今も旭川の水源は、石狩川本流最上流の大雪山ダムと、平成19年に竣工した忠別川上流の忠別ダムである。かつて曲がりくねって流れていた石狩川の水は、今も昔も生命の水なのである。

\*引用・参考文献:旭川市史、新旭川市史、旭川市教育委員会「あさひかわの文化」、旭川市水道局「沿革」



土や岩でつくられたロックフィルダム・大雪山ダムの  
大雪湖[上川町](旭川開発建設部蔵)

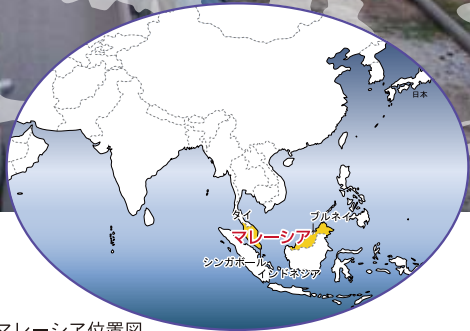


世界川紀行

# マレーシアにおける 都市と地方の河川



寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム  
矢野 雅昭



マレーシア位置図



## マレーシアの概要

少し前の内容となり恐縮ですが、2009年3月24～27日にマレーシアを訪れた際のことを紹介します。

マレーシアは東南アジアに位置し、マレー半島と複数の島々からなる国で、国土面積は日本の0.9倍の約33万km<sup>2</sup>（外務省HP 2014）、人口は2,995万人（マレーシア統計局HP 2014）であり、マレー系（約67%）、中国系（25%）、インド系（約7%）（外務省HP 2014）の人たちで構成される多民族国家です。また2004～2013年の年平均経済成長率は約5%（外務省HP 2014）で、経済発展が順調に進んでいます。



マレーシア（マレー半島南部）位置図



マレーシア灌漑排水局でのセミナーの様子

マレーシアを訪問した目的は、氾濫原管理に関わる研究連携の模索のためであり、当時、寒地土木研究所寒地水圏研究グループ長であった吉井厚志氏、土木研究所水災害研究グループ防災チームの主任研究員であったOsti Rabindra氏、北見工業大学社会環境工学科教授の渡邊康玄氏と、寒地土木研究所道東支所に勤務していた私がマレーシアを訪問しました。そして、マレーシア政府の灌漑排水局や大学関係者とセミナーを開催し、日本とマレーシアの双方の河川改修・研究の取り組みについて意見交換しました。また、実際にマレーシアの河川や流域を見学させて戴きました。



## クアラルンプールの河川とSMARTプロジェクト



クアラルンプール市街



マレーシアで最初に訪れたのは、人口約 170 万人 (2014 マレーシア統計局) を要する首都のクアラルンプールです。当時のクアラルンプールの印象としては、近代的な高層ビルが立ち並ぶ一方、少し離れると古い民家が立ち並び、まさに現在、発展の渦中であることを思わせるものでした。

また、自動車の保有者も増加しており、我々も市街地では交通渋滞にしばしば見舞われました。クアラルンプールでは、近年、洪水の頻度が増加していますが、河川が掘り込み式の河道であり、都市化により河道を拡幅することが困難な状況でした。

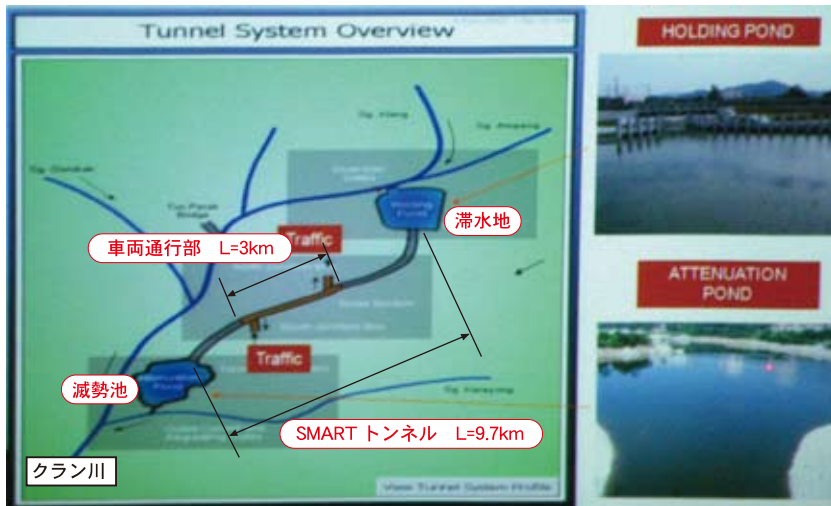


クアラルンプール市街 クラン川

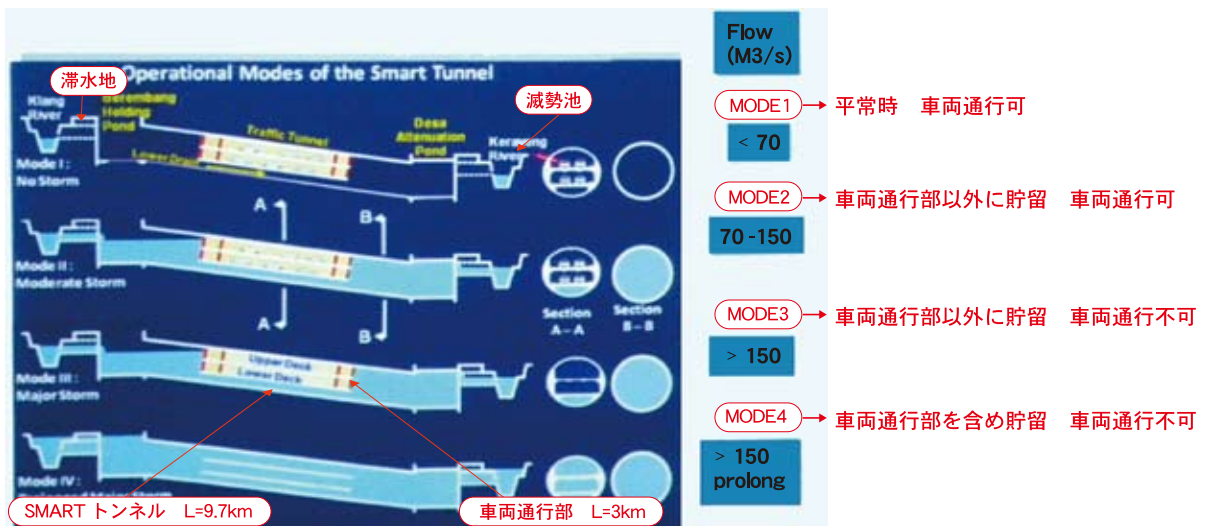
そのため治水対策として、SMART (Stormwater Management And Road Tunnel) プロジェクトという、洪水調節と交通渋滞の緩和のための道路を兼ねた地下トンネル施設を設置・運用する珍しい取り組みが行われていました。この SMART プロジェクトについて、より詳細に述べるため、SMART プロジェクトのホームページ (<http://smarrtunnel.com.my/>) を参照します。SMART トンネルは上流側の滞水池と下流の減勢池を結ぶ延長 9.7km、外形 13.2m のトンネルで、その中にさらにゲートによって隔離された延長 3km の車両通行部があります。貯留量は上流滞水池で 600,000m<sup>3</sup>、下流減勢池で 1,400,000m<sup>3</sup>、トンネル内で 1,000,000m<sup>3</sup> (その内、車両通行部が 250,000m<sup>3</sup>)、合計貯留量は 3,000,000m<sup>3</sup> です。SMART トンネルの運用は洪水の段階により MODE1~4 があり (次頁の図参照)、MODE1 は、平常時で、洪水の貯留の必要がなく、車両通行が認められる状態です。MODE2 は、そこそこの降雨で、70~150m<sup>3</sup>/s の流入量があり、下流に 50m<sup>3</sup>/s のみ流下させ、残りを車両通行部以外に貯留し、車両通行が認められる状態。MODE3 は、大雨により 150m<sup>3</sup>/s 以上の流入量が予測され、下流に 10m<sup>3</sup>/s のみ流下させ、残りを車両通行部以外に貯留する。また、車両はトンネルから撤退させられるが、豪雨が早く収まれば、車両通行部は冠水しない状態。なお、車両通行の再開まで 2~8 時間掛かります。MODE4 は豪雨が続く、車両通行部にも貯留し、下流に 10m<sup>3</sup>/s のみ流下させる状態。車両通行の再開は 4 日以内に行います。我々が現地を受けた説明では、2007 年 7 月~2009 年 3 月までに MODE2~4 がそれぞれ 43, 25, 1 回の合計 69 回稼働したとのことでした。



クアラルンプール市街 SMART 入口



SMART の平面概略図 (現地での説明受講時のスライド拡大に加筆)



SMART の MODE 状態の概略図 (現地での説明受講時のスライド拡大に加筆)





## 地方の川

このような開発が進んだ都市の河川を見学した後、マレー半島南部のジョホール州に位置し、自然蛇行や自然林がまだ残されているムアル川とバトゥパハット川を訪れました。これらの河川の下流部では河床勾配が緩く、ムアル川では感潮域が河口から100km程度上流まで及ぶとのことでした。我々は、実際にこの川をボートで遡上し、河川の状況を確認しましたが、やはり流速は非常に遅いことが見て取れました。また、日本の河川と違い、ムアル川沿いには堤防が設置されている区間がほとんどみられず、住宅や市街地が河川に近いことが印象的でした。

バトゥパハット川の河口から8kmにある2つの大きな支川の合流点では、まさに潮位の影響で河川が逆流している状況を現地で確認しました。これらの川があるジョホール州では、2006年12月～2007年1月の豪雨による洪水で100,000人が避難を要し、バトゥパハット地方では1ヶ月近く家に帰れない人もいたそうです。このように浸水が広範囲に及び、長期化する原因として、堤防がほとんど見られないことや、潮位の影響を大きく受ける河川の特徴が影響しているのかも知れません。また、流域内ではパームヤシのプランテーション開発に伴い裸地が拡大しており、これらの場所からの細粒土砂が河川へ流出・堆積していることの影響も考えられます。



ジョホール州の位置図



ムアル川での船による遡上時の河川の様子



ムアル川沿いの市街地



流域内のパームヤシのプランテーション



## 将来に向けて

マレーシアを訪れ、現地の状況を見聞きする中で、都市化や流域開発により、河川に影響が及んでいることが分かりました。このような変化は日本などの先進国でも経験されてきたものであり、ある程度推測可能なものと考えられます。そのため、予めこうした負の影響への対策を講ずることができれば、現在の先進国よりも治水・環境面でより良い河川となる可能性があるのかも知れません。

ところで、私のマレーシアの人の印象として、主に接した人が政府関係者であったからかもしれませんが、とても親切な方々であるということでした。また、当時マレーシアの灌漑排水局を訪れた際に印象的だったことは、日本に比べると、政府の要職に女性が多いと感じたことでした。現地での我々の案内も、灌漑排水局の女性職員であるParidah氏が行ってくれました。マレーシアの雰囲気、何となく穏やかに感じたのは、このように社会の要職で活躍する女性が多いことが影響していたのかも知れません。



集合写真 ジョホール州にて

# 流域の現在



NANPORO

幻のほろむい七草ふたたび

## 南幌町

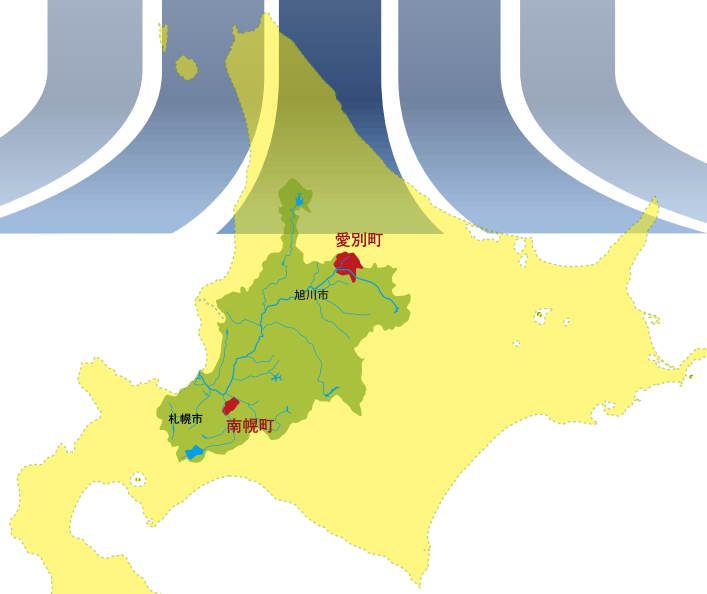


ピンチをチャンスにかえて 120年

## 愛別町



AIBETSU



流域の現在

幻のほろむい七草ふたたび

# 南幌町



幌向地区における整備イメージ(北海道開発局蔵)

※札幌ホームページ:江別河川自然再生事業

## ほろむいの名を冠した 7種の植物

明治初期には約 104km<sup>2</sup> あった高層湿地は、約 0.1km<sup>2</sup> に減少したが、南幌町の越後沼と夕張川下流の高水敷に確かに残っている。その湿地は、ポグというミズゴケ群落が多くを占めるが、昭和3年(1928年)に館脇操(たてわきみさお)博士が発表した「石狩幌向泥炭地植物」で、発見されたほろむい七草が紹介された。ホロムイソゲ・ホロムイツツジ・ホロムイコウガイ・ホロムイクグ・ホロムイリンドウ・ホロムイイチゴ。その希少性もさることながら、一つの地名が7種もの植物に命名されるケースも稀と言われる。

近年になって、湿地研究の世界的権威で北海道環境財団理事長を務めた故・辻井達一氏の呼び掛けで、NPO法人ふらっと南幌をはじめとするさまざまな団体が参加して湿地の調査が行われた。



かつての幌向原野の位置(資料:北海道開発局)

## 地域固有の自然と賑わいをふたたび

その結果、平成24年までに7種すべてが確認された。北海道開発局では、「石狩川自然再生事業」の当別地区に続く第2弾として、夕張川の幌向地区の高水敷で、ほろむい七草をはじめとする湿生植物が生息するかつての湿地環境の再生を掲げ、地域と協働し、湿地の整備に向けて取り組みを始めている。

幌向固有種の加工・活用にも期待が高まっている。ふらっと南幌は、ミズゴケの試験栽培に取り組み、今後は、ホロムイイチゴやホロムイリンドウなどの苗を里親制度で育てるとともに、ホロムイイチゴをご当地グルメとしてお菓子やジャムに加工することを研究しており、地域ぐるみで活性化を目指す。

アイヌ語で「\*ポロモイ」（湾曲して緩やかに流れる所）という、かつての村名であり、かつての姿を伝える七草は、地域の未来にも、きっと七つの幸運を運んでくれるに違いない。

\*アイヌ語の訳はさまざまあります。主に使われている訳を掲載しました。



かつての湿地の姿を残す夕張川下流河川敷(北海道開発局江別河川事務所蔵)



ミズゴケの試験栽培用ユニット



ホロムイイチゴ



ホロムイクグ



ホロムイコウガイ



ホロムイソゲ



ホロムイソウ



ホロムイツツジ



ホロムイリンドウ

(ほろむい七草写真、すべて北海道開発局蔵)

- 【希少性】 ○ホロムイコウガイ : 絶滅危惧ⅠB類(環境省レッドリスト2012)  
絶滅危急種(北海道レッドデータブック2001)
- ホロムイクグ : 絶滅危惧Ⅱ類(環境省レッドリスト2012)  
絶滅危急種(北海道レッドデータブック2001)
- ホロムイリンドウ : 希少種(北海道レッドデータブック2001)
- ホロムイイチゴ : 貴重植物(緑の国勢調査1976)

◎参考資料: 札幌開発建設部江別河川事務所「石狩川下流幌向地区自然再生」、NPO法人ふらっと南幌「幌向湿原固有種植生の再生・環境保全・活用事業」

( NPO法人ふらっと南幌では、石狩川自然再生対象地・夕張川河川敷も含むルートをはじめ、南幌町フットパスを開催しています。 )

流域の現在

ピンチをチャンスにかえて120年「上川百万石」と呼ばれた道内屈指の優良な稲作地・

# 愛別町

上川地域にあって、

大正時代に入っても米がつかれず困窮した。

ようやく稲作が普及したあとは、減反政策により、

ふたたび苦難の時代へ。

しかしひるまない。問題が起きれば、皆で向き合って  
環境に適応して挑めばいい。

こうして先人から受け継いできた志が、

オンリーワンなまちを築き上げた。

大雪山に抱かれ、石狩川がキラキラ流れる愛別町120年。



愛別町最大のイベント「きのこの里フェスティバル」(上川総合振興局「北海道の風景」より)



名物4,000人分のジャンボきのご鍋(上川総合振興局「北海道の風景」より)

## 2014年きのこの里 フェスティバル

- 平成26年9月14日(日)開催  
10:00~14:30
- 開催場所  
愛別ダムきのこの里広場  
くわしくは  
愛別町産業振興課商工観光係まで  
TEL:01658-6-5111

## 逆転の発想で乗り切る

愛別町は、明治28年に和歌山・岐阜・愛知からの団体移住により拓かれたが、当時は上川地域で最も困難な村と言われた。山地・丘陵が多く、石狩川扇状地の扇頂付近にあたる地理的条件と、最寄駅が比布駅と遠く、道路も悪路という交通不便からだ。

当時の主要商品作物の大豆・小豆は輸送費がかさみ、搬出するにも危険が伴い、商売にならなかった。代わりに栽培されたのは、ハッカと菜種、繭だ。ハッカは油にして出荷するため軽量で輸送に便利、市場価値も高いため盛んに栽培され、大正2年のハッカ作付面積は上川第一位で、菜種、繭も好成績をあげた。住民悲願の石北線・愛別駅は大正11年に開業し、土功組合もできて水田化は進み、昭和16年頃には水田化率は60%となり、人口も増加、豊饒な農村へと成長した。



明治末の愛別原野(北海道大学附属図書館蔵)

## 全道に知られるきのこの里へ

しかし戦後、コメ余りが深刻となり、70年代から国による減反政策がはじまる。昭和47年、2軒の農家がえのき茸の栽培に取り組んだことを機に、町内にきのこ栽培が広まり、道内屈指の生産量を誇るほどに。現在は、「きのこの里」として唯一無二の存在だ。

そんな歴史をつむいで、今年で開基120年。1年間展開される記念事業も、愛別町らしく、皆で考えた。さあ、つぎなる時代へ。

\*参考資料:新旭川市史、愛別町「愛別町の産業」



石狩川上流に位置する愛別町は、水辺をレジャーやイベントにも有効活用している。写真はきのこの里オートキャンプ場とパークゴルフ場(愛別町蔵)

愛別町開拓 120 年記念事業 主要事業 ( 予定 )

スローガン 『つなげよう あふれる愛を 伝統文化を』 テーマ 『輝くあいべつの未来へ』

|               |   |
|---------------|---|
| 新カントリーサインを作ろう | 町民公募の国道等にある絵看板のデザインを記念式典で発表             |
| 町民レクリエーション大会  | 毎年7月第1日曜日に実施するスポーツデーを全町民参加へ             |
| 記念式典及び講演会     | 8月10日に総合センター大ホールにて実施。映画監督の大林宣彦氏による記念講演会 |
| 石の彫刻公園整備      | 愛別町出身の彫刻家・故中井延也氏の作品を集約した公園を整備予定(北町農村公園) |
| 記念史発行         | 前回の100年記念史以降のできごとを編纂中                   |
| 愛の鐘           | 開基80周年記念で役場屋上に設置した「愛の鐘」の再設置を調整中         |
| 記念植樹          | 旭山地区にある町有林に針葉樹を植樹                       |
| 協賛冠事業         | 本年12月31日まで「開拓120年記念」と冠した事業を実施           |

あいべつ2014  
**120** 愛別町開拓年

<スローガン>  
 『つなげよう  
 あふれる愛を伝統文化を』

<テーマ>  
 『輝くあいべつの未来へ』

<予定記念事業>

- ・ 記念式典及び講演会(8月10日)
- ・ 新カントリーサインを作ろう
- ・ 石の彫刻公園(仮称)整備
- ・ 町民レクリエーション大会
- ・ 記念植樹
- ・ 記念史発行
- ・ その他冠事業

明治28年(1895年)、  
 愛別の地に開拓の跡が下ろされてから  
 平成26年(2014年)は、  
 120年目の節目の年を迎えます。  
 この記念すべき節目の年に、  
 将来を展望する年として力を結集し、  
 輝く未来の発展に向け、  
 町民みなでお祝いしましょう。

愛別町開拓120年記念事業実行委員会  
【事務所】 愛別町 役場総務企画課政策企画室  
 北海道山越郡愛別町字幸町19番地  
 TEL 01658-6-5111 FAX 01658-6-5110  
 愛別町ホームページ: http://www.town.aibetsu.hokkaido.jp/

くわしくは  
 愛別町開拓 120 年記念事業実行委員会 (愛別町総務企画課政策企画室) まで TEL : 01658-6-5111



## 水防法及び河川法改正のポイント

平成25年6月、水防法および河川法の一部が改正された。水防法と河川法は、国が行う河川管理に常に時代の声を採り入れてきた歴史を有しており、今回の改正は、これからの時代が求める河川管理の在り方を改めて世に示すものと言える。



### 時代に即した川の法律

水防法は、「洪水、津波又は高潮に際し、水災を警戒し、防御し、及びこれによる被害を軽減し、もつて公共の安全を保持することを目的とする」としている（第一条）。水防の責任を有する市町村と市町村の組合が管理団体として規定され、洪水時には各地で水防団による水防活動が実施されている。しかし、近年は水防団員の高齢化と減少化が進んでおり、地下街や高齢者等利用施設、大規模工場等の自主的な避難確保・浸水防止の取り組みなど、地域の水防力低下に対応する水防の担い手の拡大等が求められている。

河川法は、「河川について、洪水、津波、高潮等による災害の発生が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持され、および河川環境の整備と保全がされるようにこれを総合的に管理することにより、国土の保全と開発に寄与し、もつて公共の安全を保持し、かつ、公共の福祉を増進することを目的とする」としている（第一条）。「治水」に重点を置いた旧河川法から、新河川法は戦後復興の要として利水が加えられた。さらに平成9年の改正では、自然への配慮と期待から法律の目的に環境が加えられた。しかし、近年は高度成長期に整備された河川管理施設の老朽化が進み、その対策が求められている。また、民間による河川環境の保全等の活動の促進と、平成23年の東日本大震災以降、再生可能エネルギーの普及拡大は国の重要課題である。



### 平成25年改正のポイント

今回の水防法および河川法の改正は、「近年頻発する水害や、構造物の老朽化等を踏まえ、水防活動及び河川管理の充実及び連携の強化を図るため、河川管理者等による水防活動への協力の推進を図るための措置、河川管理施設等の維持・修繕の基準の創設、河川協力団体制度の創設等の措置を講ずるとともに、小水力発電の普及促進を図るため、従属発電のための水利使用に関する登録制度を創設する」こととされ、以下をポイントとしている。

- 1 水防活動への河川管理者等の多様な主体の参画
- 2 河川管理施設の老朽化対策等適切な維持管理の確保
- 3 再生可能エネルギーの導入促進



これにより、地域の防災力の強化、河川管理施設等の確実な維持管理等による安全と安心を確保するとしている。

## 改正の概要

### 1.水防活動への河川管理者等の多様な主体の参画

- ①水防計画に基づく河川管理者の水防活動への協力
- ②浸水想定区域内の地下街、高齢者等利用施設、大規模工場等における自主的な避難確保・浸水防止の取組みの促進
- ③水防協力団体の指定対象を拡大し、建設会社等の民間企業や大学、自治会、ボランティア団体等との連携



水防活動の訓練状況

### 2.河川管理施設の老朽化対策等適切な維持管理の確保

- ①河川管理施設等の維持・修繕の基準の創設
- ②河川協力団体制度の創設

#### [ 河川協力団体とは ]

自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行う NPO 等の民間団体を支援するもの。河川協力団体としての活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象。河川管理者に対して申請を行い、申請を受けた河川管理者は適正な審査のうえ、河川協力団体として指定。

河川協力団体に指定されると、河川協力団体が活動するために必要となる河川法上の許可等について、河川管理者との協議をもって足りることになる。

石狩川流域では、幾春別川を良くする市民の会などが、今年度、河川協力団体の指定を受けた。

#### [ 河川協力団体の主な活動 ]

1. 河川管理者に協力して行う河川工事または河川の維持
2. 河川の管理に関する情報または資料の収集及び提供
3. 河川の管理に関する調査研究
4. 河川の管理に関する知識の普及及び啓発
5. 上記に附帯する活動

## 改正の概要

### 3.再生可能エネルギーの導入促進

再生可能エネルギーの普及拡大のため、従属発電について許可制に代えて登録制を導入し、小水力発電の普及促進に取り組む。



※掲載資料・画像は、すべて国土交通省北海道開発局より

◎さらに詳しい内容は、国土交通省のホームページを参照



01

流域環境保全活動

02

河川教育活動

## 石狩川振興財団の活動報告

[ 公益目的事業 ]

03

NPO・市民団体への支援

04

平成25年度  
市町村河川情報委員  
情報交換会議



01

## 流域環境保全活動 平成 25 年度実績から

石狩川振興財団では、石狩川とその支川、砂川遊水地等を活用して、河川環境を知り川を大切にする心を育む活動を実践しています。

### さけの稚魚放流会

- 事業対象者／月形町
- 実施場所／須別都川
- 実施月日／4月22日
- 参加人数等／約100名(子ども70名)



#### 事業内容

川と生き物についての紙芝居、  
さけの稚魚の放流



「市内小学校等で飼育した稚魚を放流。  
ちゃんと帰ってきますように」

### 砂川遊水地で魚釣り、Eボート体験

- 事業対象者／岩見沢市幌向小学校
- 実施場所／砂川遊水地
- 実施月日／6月19日
- 参加人数等／63名



#### 事業内容

遊水地の仕組みと役割、生活と水、  
石狩川の魚について学び、Eボート体験



「Eボートも魚釣りも楽しかった」

## ▶ 川の環境を調べよう「奈江川探検」

- 事業対象者／砂川市立砂川小学校
- 実施場所／空知川支流奈江川
- 実施月日／9月13日
- 参加人数等／44名



### 事業内容

魚の生態、  
川の安全利用について学ぶ



「たくさんのお魚が採れたよ！」

## ▶ 石狩川の水質を学ぶ

- 事業対象者／  
千歳市立第2小学校
- 実施月日／7月11日
- 実施場所／  
滝川防災施設
- 参加人数等／35名



### 事業内容

川の水を採ってきて、透明度等の  
水質調査、ろ過の実験



「施設外で石狩川の水質実験、  
施設内では石狩川について学んだ」

## ▶ ジャリンコ自然体験(ワカサギ釣り)

- 事業対象者／砂川子どもセンター協議会
- 実施月日／2月8日
- 実施場所／砂川遊水地
- 参加人数等／100名(子ども50名)

### 事業内容

遊水地の仕組みと役割、  
ワカサギ釣り指導、ワカサギ釣り



「寒かったけどワカサギ釣りは楽しかった」

## ▶ 子どもチャレンジ教室

- 事業対象者／長沼町教育委員会
- 実施場所／砂川遊水地
- 実施月日／2月9日
- 参加人数等／55名

### 事業内容

遊水地の仕組みと役割、ワカサギ釣り指導、  
ワカサギ釣り、かんじき歩き体験



「はじめてのワカサギ釣りと  
かんじき体験！」

※緑の回廊づくり植樹と石狩川の歴史を学ぶ(土曜ふるさと学校)も流域環境保全活動として実施しましたが、河川教育活動でもあるため、2河川教育活動で紹介しています。

## 02 河川教育活動 平成 25 年度実績から

石狩川振興財団では、石狩川の水害や治水の歴史、水利用、流域の風土・水文化、防災、河川環境及び川の安全利用などをテーマに川や河川管理施設等で学習活動を実践しています。

### ▶ 防災学習 (DIGの実践)

- 事業対象者／道立滝川高校
- 実施場所／滝川防災施設
- 実施月日／4月21日
- 参加人数等／11名



#### 事業内容

DIG(災害図上訓練)、池の前排水機場にて内水対策の必要性を学ぶ



普段見られない排水機場内部も見学

### ▶ 江別のまちと川の歴史川の仕組み

- 事業対象者／江別市で公募
- 実施場所／千歳川、江別河川防災ステーション
- 実施月日／8月3日
- 参加人数等／34名



#### 事業内容

川の模型から川のしくみ、江別のまちと川の歴史を学び、調査船弁天丸で川を観察



「デッキでたくさんのおともを見つけられて面白かった」

## ▶ 緑の回廊づくり植樹と石狩川の歴史を学ぶ (土曜ふるさと学校) ※1流域環境保全活動も含む

- 事業対象者／NPO山のない北村の輝き、岩見沢市教育委員会
- 実施月日／11月2日
- 実施場所／北村防災ステーション
- 参加人数等／60名(子ども30名)



### 事業内容

浄化実験、明治31年洪水と石狩川の歴史を学ぶ



「児童対象の水質実験(左)と大人対象の石狩川の歴史講座」



03

## ここに「まちづくり・川づくり・ 人づくり」の現在がある

いま

### NPO・市民団体等への支援

当財団の事業のひとつに、NPO など非営利活動団体への支援と助成があります。平成 26 年度はこれまでのところ 17 団体です。支援する全団体名と助成金合計、活動事例のいくつかを紹介します。

## ▶平成26年度 市民団体等支援・助成概要

|    |                           |     |
|----|---------------------------|-----|
| 1  | 特定非営利活動法人 札幌歩こう会          | 継 続 |
| 2  | 石狩川下覧櫓                    | 継 続 |
| 3  | 「緑とエコ」サポーターネット            | 継 続 |
| 4  | 河川愛護団体 リバーネット21ながぬま       | 継 続 |
| 5  | 特定非営利活動法人 まち・川づくりサポートセンター | 継 続 |
| 6  | 砂川子ども水辺協議会                | 継 続 |
| 7  | 特定非営利活動法人 北海道市民環境ネットワーク   | 継 続 |
| 8  | 特定非営利活動団体 ネイティブクラーク       | 継 続 |
| 9  | バイオブロック工法普及連絡協議会          | 継 続 |
| 10 | 特定非営利活動法人 山のない北村の輝き       | 継 続 |
| 11 | しのつ湖未来会                   | 継 続 |
| 12 | 江別ヨットクラブ                  | 継 続 |
| 13 | えにわ湖慈しみフェスタ実行委員会          | 継 続 |
| 14 | 精進川美化緑化の会                 | 継 続 |
| 15 | あかびらリバー&ロード愛護実行委員会        | 継 続 |
| 16 | 特定非営利活動法人 北海道住宅の会         | 継 続 |
| 17 | 名寄市民劇場実行委員会               | 新 規 |

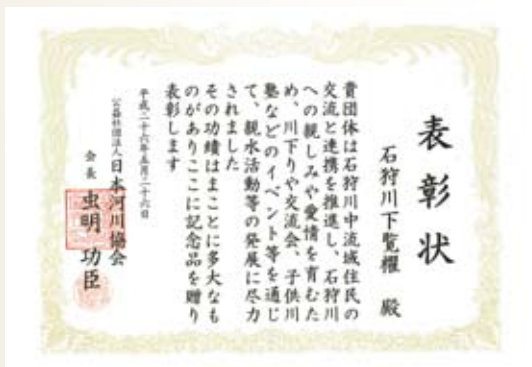
支援・助成金合計

2,750,000円

## ▶ 長年の活動が評価され河川功労者に 石狩川下覧権

石狩川下覧権が、平成 26 年河川功労者として表彰された。河川功労者は、河川文化の発展、河川の整備事業の推進、水防活動、河川愛護、河川に関する研究等に功績があった個人・団体に対して、公益社団法人日本河川協会が毎年表彰しているものだ。

砂川遊水地での「石狩川下覧権オアシスパークの夕べ」をはじめ、石狩川中流域での川下りや交流会、子どもが川で安全に遊ぶためのレクチャーなどが、親水活動等の発展に寄与してきたことが評価された。石狩川下覧権では、「これを励みに、ますます流域間の絆と連携に励む」とし、これからの活動に期待が膨らむばかりだ。なお、石狩川下覧権の活動内容については、34 号に概要を紹介している。



表彰理由が書かれた表彰状。



北海道の関係機関の推薦を受けて受賞。

## ▶ 馬とふれあいながら環境を学ぶ 特定非営利活動団体 ネイティブクラーク

公式ブログ <http://blog.canpan.info/nativeclark/>

旭川市を流れる石狩川と牛朱別川、そして永山新川の清掃活動を毎年行っている。ネイティブクラークは、馬を手段に森林の保護・保全、利用促進に取り組み、乗馬を通して心身ともに豊かに生きていくことを子どもから大人まで幅広く伝えることを目的に、平成 15 年に設立された。自然の中で神秘や不思議と出会い、親子で感動を共有する「センス・オブ・ワンダー」や「河川愛護活動」など、環境保全活動に長年にわたって取り組んでいる。

河川清掃活動は 5 月から 10 月まで毎月 2 回、大雪環境騎馬隊とともにボランティア約 20 名が不法投棄されたゴミを撤去する。こうした地道な活動が、白鳥舞う永山新川の美しさを保っている。



引き馬体験の様子(公式ブログより引用)



河川敷のゴミ拾いの様子。

## 国内でも珍しい石狩川での川ヨット 江別ヨットクラブ

公式ホームページ <http://www.xcue.net/eyc/wp/>

江別市を流れる広大な石狩川の、すでに夏の風物詩である川ヨット…。江別ヨットクラブは、石狩川での川ヨット及び水上スポーツの普及により、石狩川の観光開発とクラブ員の相互親睦を図ることを目的に昭和61年に発足した、今や江別市観光の一翼を担う老舗団体だ。

6月から9月までの毎週土日、18回程度実施される石狩川セーリング（新石狩大橋から美原大橋間）と、7月から9月まで毎月1回、支笏湖や洞爺湖で行われるクラブツアーを中心に、市民対象の体験会や交流会、河川清掃なども行っている。同クラブによると、石狩川の夏の風は、ちょうど良い具合に進行方向に吹くため長く取れるという。斬新な発想と活動力は、石狩川の可能性と舟運盛んな頃のかつての姿さえも体感させてくれる。



石狩大橋と王子のえんとつを背に帆走するディンギー。

### 湖でのクラブツアー



活動や体験会に参加したい方は江別ヨットクラブの公式ホームページへ。

NPO・市民団体等への支援については

公益目的事業による支援については

石狩川振興財団まで <http://ishikari.or.jp/>

札幌市中央区南1条東1丁目5 大通バスセンタービル1号館8階 TEL:011-242-2242

## 04

河川事業に関する情報交換と川からのまちづくり

平成25年度市町村河川情報委員  
情報交換会議

平成25年11月21日(木)、石狩川流域市町村33自治体の市町村河川情報委員と、北海道開発局、札幌・旭川開発建設部、北海道の河川担当者、合計63名が参加して、第23回目となる「市町村河川情報委員情報交換会議」が札幌市で開催されました。

今回は、前半は水防災をテーマに各機関から情報提供をいただき、後半は石狩川流域圏としての取り組みや、観光・環境保全に関する取り組みが紹介される盛り沢山の内容で、発表者への質問も多く、実のある意見交換の場となりました。

## ▶ 平成25年度 市町村河川情報委員 情報交換会議 プログラム

- 1 開会挨拶 石狩川振興財団 会長 黒氏博實
- 2 情報提供

### (1) 水防災について



水防法及び河川法の改正について  
北海道開発局建設部河川管理課長  
阿部 徹 氏



北海道における減災の取り組みについて  
北海道建設部土木局河川課主幹  
橋 文夫 氏



市町村における防災訓練の取り組みについて  
岩見沢市建設部建設管理課長  
山下 修 氏

## (2) 流域圏会議等について



石狩川流域圏会議の状況について  
恵庭市建設部土木課長  
黒牧 智器 氏



サイクリング観光への取り組みについて  
美瑛町建設水道課長  
三田村尚樹 氏

## (3) 北海道開発局からの情報提供



石狩川環境保全  
北海道開発局札幌開発建設部河川計画課長  
岡部 博一 氏



石狩川上流の河川環境保全に向けた取組みの一例  
北海道開発局旭川開発建設部治水課長  
吉村 俊彦 氏

## (4) 質疑応答

## ▶ 市町村の発表

## 岩見沢市

平成24年9月の豪雨に伴う浸水被害後における  
岩見沢市の防災訓練等にかかる取り組みについて

平成24年9月の浸水被害から約1年間の取り組みが発表された。氾濫した河川にはハザードマップがなかったため、9河川を対象に岩見沢市中小河川洪水ハザードマップを作成し、3月下旬から配布している。災害時、市役所からFMはまなすの放送に割り込んで緊急情報を送るラジオ端末を、公共施設を中心に800台配布した。また、南町樋門付近の特殊マンホールを大口径化した。ポンプ8台が設置可能になり、内水排除に大きく貢献できる。

災害時における市職員の円滑で的確な対応力を養うため、平成25年8月31日、市職員の7割となる415名が参加して防災訓練が行われた。美園小・東小の避難所では、小学生も参加し、実践さながらのシナリオに基づき、初動を中心とした各対策部による対応を行った。

課題は確実に把握され、全住民参加の防災訓練の必要性をさらに強くしたものとなった。



平成24年9月の浸水被害。



防災訓練の様子。

## 恵庭市 石狩川流域圏会議の状況について

平成 25 年度に石狩川流域圏会議が実施した豪雨災害対策職員研修と、川を軸としたサイクリングロードの2つの主要事業が、恵庭市から報告された。このうち、川を軸としたサイクリングロードは、平成 24 年度の意向調査結果およびスタートアップミーティングを踏まえたもので、「石狩川流域の資源を生かした活力ある流域圏づくり」という政策テーマを、海外からのサイクリストにも魅力のある川を軸としたサイクリングコースを作ることで実現しようというものである。

具体的には、市町村に点在している素材をまとめることで広域的に魅力アップを図り、ツアー化をも視野に入れ、流域全体のルートマップを制作し、観光客と地域住民に情報発信し、旅行会社へもアピールしていく。平成 25 年度は、イメージマップの作成と各市町村の素材を調査し、シンポジウムを開催。本年は、流域全体マップと詳細サンプルマップを作成し、8月に開催される石狩川流域シンポジウムで、マップを活用した現地体験等が予定されている。



恵庭市の専門学校を会場に行われた平成25年度の豪雨災害対策職員研修の様子。



流域サイクリングマップイメージ。

## 美瑛町 サイクリング観光への取り組みについて

今やアジアからの観光客をも魅了する丘のまち美瑛の風景を、ヘルシーにまるごと体感できる試みとして美瑛町が力を入れているのがサイクリング観光だ。起伏に富んだ地形はサイクリングに適し、観光スポットを網羅したコースは疲れを忘れさせてくれる。

「美瑛センチュリーライド」は、道内外から約 900 人も選手が参加するサイクリング大会で、支えているのは約 180 名の町民ボランティアである。レース中は交通整理員が誘導にあたり、沿道からの声援は選手たちの背中を押してくれる。また、昼食や交歓会には、美瑛産の農産物を使用した手作り料理も並ぶ。参加選手の約 3 割は町内に宿泊し、町はもちろんのこと、周辺にも経済効果をもたらしている。美瑛ならではの温かな「お・も・て・な・し」を発信するこの大会、平成 26 年は 9 月 20 日（土）・21 日（日）開催予定である。



コースは1日目60km2日目100kmで合計160km。2日間で100マイル(160km)走るのでセンチュリーライド。



発着会場は美瑛町スポーツセンター。



---

一般財団法人 石狩川振興財団

---

●発行 平成 26 年 8 月

●住所

〒060-0051

札幌市中央区南 1 条東 1 丁目 5 大通バスセンタービル 1 号館 8 階

TEL : 011-242-2242 FAX : 011-242-2445

●ホームページアドレス <http://www.ishikari.or.jp>

○表紙写真



〈茨戸川・石狩地区地域防災施設において〉

石狩市の小学校では、石狩川をフィールドとした環境学習に取り組み、調査船弁天丸に乗って川の中から川岸や街を見るときともに、川の動植物観察を行っています。